

子どもを事故 から守ろう！

親御さんはみな、子どもたちが病気にかかるないように、いろんな注意を払っています。

同じように、事故を予防することができれば、子どもたちの健康や命を救うことにつながります。

事故のことを知って、子どもたちを事故からしっかり守りましょう！



安全をチェックしましょう

子どもたちの事故は、その子のいる環境がきちんとしているとおきにくくなっています。身の周りや家の外で事故に結びつくものがないか、チェックしてみることはとても大切です。

月齢・年齢によって注意することがらが変わります。子どもたちの発達によって、生活環境がだんだんと広がっていくからです。

当院では乳幼児健診の際に、子どもたちが安全に過ごすことができるかどうかをチェックし、ご家庭に応じた指導を行っています。職員が個別にチェック・シートにそって問診しますので、ご協力下さい。



子どもを事故から守ろう！

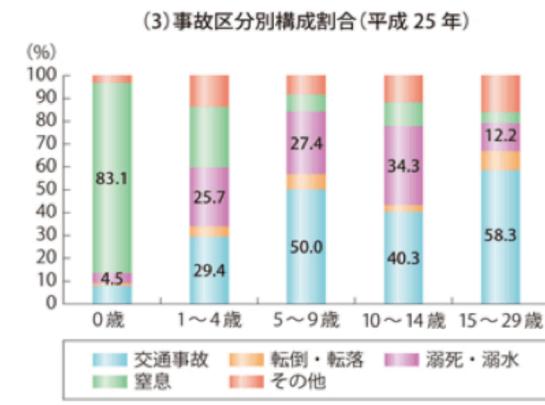
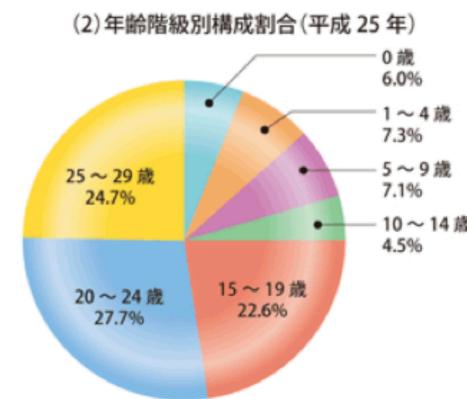
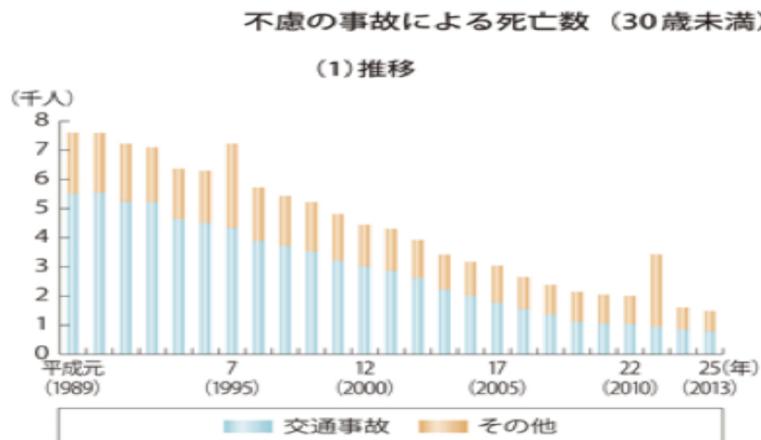
●死因順位

日本の子どもたちが死亡する原因で注目すべきなのは「不慮の事故」が多いことです。0歳は生まれつきの障害や病気が主ですが、その他の年齢では事故が2位から3位。これは先進国の中では高い数字です。

事故を予防すれば、そういう子どもたちの命を救うことができることになります。

年齢	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形等	呼吸障害等	突然死症候群	出血性障害等	不慮の事故
1～4歳	先天奇形等	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	肺炎
5～9歳	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等	心疾患	肺炎
10～14歳	悪性新生物	自殺	不慮の事故	先天奇形等	心疾患

●事故死の推移、種類



交通事故による死亡数は年を経ごとに減少していますが、その他の死亡原因にはあまり変化がありません。（平成23年は東日本大震災による災害死が加わっています。）

子どもたちの事故は、年齢や月齢によっておき方が違っています。赤ちゃんのときは部屋の中でおき、次第に家の中、そして外でもおきてきます。発達に応じて、次第に活動範囲が広がるからです。

その子の発達を見ながら「先回り」して、事故を予防するようにしてみて下さい。ちょっとした工夫や注意で防げる事故もたくさんあります。

また、小さいときは保護者の注意で防げるものが大部分ですが、大きくなってきたら周囲の大人たちがしっかりと見守ってあげて下さい。また、子ども自身が分かるように話してあげることも必要になってきます。